



木村家の古文書

木村家の古文書は、木村家住宅を解体したとき
にはずされた機（ふすま）から発見されました。
昔はいらなくなった紙を襦袢の下に張る裏紙としてよく利用していたので、このような形で古文書が発見されるのは珍しいことでありませんでした。しかし、貼り付けられた紙を一枚一枚がし
て解決した結果、これらの古文書からこれまでに知られていなかった様々なことがわかってきました。
そのひとつとしてあげられるのが「新紙の離紙状」と呼ばれている古文書の存在です。この離紙状は「二くたり半（二行半）」とも言われるように短いものが一般的ですが、今回発見された離紙状は1行にもなる大変長いものです。また、この離紙状は妻割から算（む）こ二童子にあてたものであり、幕府時代の女性の地位を証明する上で重要な史料となります。
また、その他の文書からは庶民や商人が旅をするときに必要だった手紙なども見つかったり、知恵をこめて、当時の交通や運送なども考える上で貴重な史料です。

木村家の関札

木村家には古文書のほかにも、枕所にまつわる色々なものが大切に保管されています。関札（せきざ）もその一つです。
関札は大名が参勤交代などで七ヶ宿街道を通ったときに、木村家や林惣とつた場合などにかかけられたものです。これは「げんかんまえ」と呼ばれる家元の長押（なげし）などにのりつけて残されていました。
これまでに確認されている関札の数は7枚で、それらには下記のように記されています。
これらの内容から、木村家では大名のほか、なんらかの原因で亡くなった人の墓（むつぎ）を故郷に送る途中での休憩所としても利用されていたことが分かります。



【関札】
六幡佐渡守 林
三月十三日
林田屋 佐渡守 林
十月十四日
林田屋 佐渡守 林
四月十八日
井内政少将 林
※はなは 役は別注不詳

県指定有形文化財

平成15年3月、江戸中期とされる創建当時の部材を活用し、地元の材木岩公園内に移築復原した。宿場町の象徴だった屋敷を忠実に復原し、極めて貴重な建築様式を残していることが評価され、平成16年3月30日県指定有形文化財に指定されている。



【居宅部】
うちわみせ・おかみを見る。



【座敷部】
こうしのみより
とこのまを見る。



特徴点

上戸沢の町は南が高く、北が狭い。袂断屋敷もその地形上の影響もあり、南側が高台、北側が低台となる。即ち、南側に客座敷部を配し、北側に居宅部を配する形となっていた。
上戸沢の町では、街道に面した軒を一律にはお出して「せがし」送りし、開口部は、しどみ戸、出格子、いらい戸、腰高障子を用い、座敷部を上手の位置に、土間道を下手に配して、町並全体に秩序感を与えている。この袂断屋敷も例外ではなく、むしろ古くからその典型として存在して来た。
規模、形状の面で、上手に当たる客座敷と居宅に分けられるが、木村家の主な間取り構成は次のとおり。

- 【座敷部】
「とこのま」 表座敷で本陣入りした正客の居間
「よじょう」 次の間
「こうしのみ」 控えの間で付き人、家来衆の部屋に当てられたと思われる。
「げんかんまえ」 「げんかんまえ」として独立し、客人専用の玄関を設けている。
「なかのま」 客室休息時の警備用の部屋とも言われるが、主人の居宅ないし寢室として、また役宅としての納書室を兼ねた、とも見られる。
- 【居宅部】
居宅部を構成する「みせ」、「なんど」、「ひらき」、「おかみ」、「うちわ」の中で、中心となるのは、「おかみ」である。主人および家族の日常生活の場である。「みせ」は、検断・問屋業務を行う仕事場であり、帳場であった。

材木岩公園

四季を通じて豊かな自然環境と
材木岩の眺望がすばらしい。

所在地 白石市小原字上台地内
施設概要 噴水、観音堂、バーゴラ、横断屋敷木村家住宅、農家レストラン、直売所、売店
つりばり、水洗トイレ、障害者用トイレ、
駐車場「小型車79台、大型車8台」
七ヶ宿ダムの下流に水と、深谷の岩を
テーマとした「水と石との調りの公園」
として設置。目の前は国の天然
記念物「材木岩」が一望でき自然の造
形美そのもの。
【材木岩】
高さ／約65m、幅／約100m
また、背後にある岩山は虎の顔模様に見えるこ
とから「虎岩」呼ばれ、ここには虎岩公園がある。
【小原の国指定天然記念物】
自然の宝庫がいっぱい。
●材木岩 ●三ツツノキ北限地帯
●小原のヒダリマキガヤ ●小原のコツノガヤ



休憩施設のご案内

- 農家レストラン「そば処なごみ茶屋」
営業時間 11:00～15:00 (毎週水曜定休日)
 - 農林産物直売所「小原いきいき直売所」
営業時間 10:00～15:00 (第1・第3火曜日定休)
 - 材木岩売店
営業時間 10:00～15:00
※ゴールデンウィーク、盆休みは営業
※上記施設は12月から翌年3月
中旬までは、休業となります。
- 問い合わせ先
電話 0224-29-2760



建築年代

平成5年の解体・調査によっ
ても、直接創建年代も示す確
証は得られなかったが、その間
取り、築構技法、外観及び内部
の意匠、材質の腐朽度などから
推して、江戸中期頃の建築と推
測される。
また、解体後、木村家の仏壇
の戸裏に墨書が発見され、それ
によると仏壇の製作年時が、享
保20年（1775）9月とある。
そのまゝ建築の創建時を示
すものではないが、創建時に關す
る重要な傍証の一つとしても参
考にすべきであろう。